

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年10月21日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676900139
法人名	医療法人 参昭会
事業所名	グループホーム 昭ちゃんの家
所在地	鹿児島県志布志市有明町蓬原554番地6号 (電話) 099-475-2224
自己評価作成日	平成26年7月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年8月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周囲は畑や山に囲まれている緑豊かでのどかな場所である。地域の方々とのふれあいもあり、隣の畑で収穫された野菜なども提供して下さったりして交流も図っている。院長宅が隣接し、毎朝、院長の訪問があることで家族の安心にもつながっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ホームは、自然環境に恵まれた農村地帯に設置されており、広い敷地に全室ウッドデッキを設置した余裕のある建物は、木材を基調とした和やかで温かく開放的な雰囲気となっている。ウッドデッキには各居室から出入りが可能で、利用者は日光浴や散歩、利用者や職員との団欒、季節の移り変わり等を日常的に楽しんでいる。また、リビング等共用スペースは、明るくゆったりとしており、壁には利用者の写真や作品が飾られ、対面式のキッチンからは調理の音が聞こえ会話が楽しめる等、家庭的な雰囲気に満たされている。

・利用者の支援については、尊厳と誇りを大切に、その人らしさに十分配慮しながら、利用者主体の日々のケアはもとより、地域との交流や馴染みの人や場との関係の継続に努めている。

・協力医療機関の院長宅と隣接しており、院長の毎朝の訪問による状況確認と、Ipadの導入によっていつでも連携できる医療体制を構築することにより、利用者及び家族の安心に繋がっている。また、利用者の重度化に伴い、看取りの希望に対応するための体制づくりも積極的に取り組んでおり、研修等により職員の不安の除去やケアの技術の習得を図り、重度化や終末期の支援体制を整えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、リビング、職員トイレに掲示してあり、朝礼時に唱和し毎日理念の確認を行っている。ほ一む便りに毎回掲載している。	開設時に作成したホーム独自の理念に沿って、利用者の尊厳を大切に、日々思いやりのある支援に取り組んでいる。理念は、玄関ホール及び職員トイレの壁面に掲示し、朝礼時に全員で唱和して共有を図っている。また毎日の申し送りや月1回開催の「職員会議」で、研修や振り返り等を実施して、理念の理解と理念に添ったより良いケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	集落の奉仕作業や運営推進会議に参加してもらったりし、積極的に交流を心がけている。	自治会に加入し、地域の清掃作業に可能な限り参加すると共に、地域のイベント（お釈迦祭り、みなど祭り等）の見物にも体調に配慮しながら出かけている。施設の敬老会や忘年会などの行事には家族の参加もあり、交流やつながりを大切にした支援に努めている。民生委員やボランティアの訪問、中学生の体験学習等の受け入れも積極的で、また買い物や友人知人の来訪、近隣の住民からの野菜の差し入れ等が日常的にあり、利用者は地域の人々との挨拶や会話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ほ一む便りに認知症の勉強のコーナーを設けて、家族、民生委員訪問時に説明し理解を深めてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域、行政、駐在所等の参加を得て、2ヶ月に1回開催し、ホームの状況報告や地域交流、ホームからの要望等を元に意見交換やアドバイスをいただき、サービス向上に活かしている。	会議は家族、自治会長、行政、消防署、駐在所の職員等の参加を得て定期的に開催されている。利用者の現況や行事・問題点への取り組み状況、外部評価の結果等の報告がなされると共に、委員からはケアに関する質問や意見及び地域の情報等が活発に出されている。それらの内容は議事録に記載して職員にも周知が図られており、具体的に家族や地域との交流や日々のサービス向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村との連携は機会をとらえ報告、相談、各書類申請手続き等行い連携に努めており、運営推進会議参加や、生活保護の入居者もおり連携を密にしている。	市担当者には毎回の運営推進会議に出席して頂くとともに、日頃から市の担当者を訪問して、現況報告や各種の手続きに関する事及び施設の運営やケアに関する相談や意見交換を行うなど協力関係が築かれている。これらを利用者のサービス向上に反映させている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会や廃止委員会を通じて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ない事情の時は家族へ承諾し行うこともある。	居室や玄関等の施錠は行わず、外出をしたがる利用者には職員が付き添って散歩をして安定を図る等の対応をしている。近所の人達とも見守りや声かけをしてもらえる関係を築いている。また、言葉による拘束の排除も含めて身体拘束や虐待防止に関する研修を朝礼や職員会議時に実施すると共に、日常のケアの中で職員相互に喚起し合って理解を深め、安全確保やその人らしい暮らしの支援に努めている。また身体拘束廃止委員会も年に数回開催してケアに反映させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、職員で勉強会を行ったり、職員の行動などお互いが注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会がないので今後の為にも学ぶ機会があれば学んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入・退居時に家族へ契約について説明する際は、理解・納得していただけるように行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見要望箱を設置し、面会時や電話で会話する機会に意見要望を聞き出すように努めている。家族との連絡ノートも準備している。	利用者の思いや意見は声かけや所作の見守り等で把握に努めるとともに、ご家族とは主に来訪時の対話や電話等で、話しやすい雰囲気作りに努めて意見を頂くようにしている。それらは連絡ノートに記録して情報の共有を図り、申し送りや職員会議等で対応を十分に話し合い改善に努めている。結果は速やかに本人や家族にも報告してケアへの反映に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月実施している職員会議やケース会議時に話し合いの場を設け、職員の意見交換も行っている。	職員の意見や要望等は、日常のケアの中や朝礼、申し送り、職員会議時に、また内容によっては職員個々に合わせた声かけも行う等、話しやすい雰囲気作りに努めて把握し、管理者はこれらを業務改善や利用者へのサービス向上に反映できるように取り組んでいる。特にケアに関することは、職員の意見を十分傾聴し全員で検討して、サービスの質の向上や意欲に繋がるように努めている	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	院長が職員会議等にも出席され勉強会の資料を準備されたり、職員の意見を聴いたりされ各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修案内が届き次第職員へ希望を募り参加を促し、職員全員が情報と知識を共有している。ホーム便りにも研修報告の欄を設け掲載している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区グループホーム連絡協議会に加入し、研修に参加して交流している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所時に本人家族等から充分聞き取りを行いアセスメントに活かしています。また慣れないうちは不安も多いので側に寄り添いこまめに声かけを行うなど不安緩和に努めています。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>上記のとおり入所時に色々聞き取りを行い、要望や知りたいこと、不安なことなど可能な限り応えられるよう対応しています。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族が大切に思うこと等をふまえてケアマネージャーを主軸としスタッフ全体で「本人が今最も求めているケア」を優先して提供できる作りに努めています。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>パーソンセンタードケアを念頭に家族にも協力をうけながら本人の人となり大切に利用やスタッフとの生活がうまく運ぶように対応しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも積極的に介護へ参加してもらえるよう近況報告や面会、外泊の依頼、月末に作成する月次報告書等活用し、本人の状態や希望を出来るだけ叶えられるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や兄弟の方の家への外出援助や、クリニックで会える近所の方々とのふれあいを大切に、関係性が途切れないよう努めています。	馴染みの関係先は、入所時のアセスメントによる基本情報や家族や友人からの聞き取りにより把握に努め、馴染みの床屋や通院、墓参り、近隣のドライブ、買い物等可能な限り利用者の希望に添って支援している。また電話や手紙の取り次ぎも行うなど、馴染みの人や場所との関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の関係性をしっかりと把握し、席の配慮やホームでの生活が楽しく送れるようスタッフ同士情報交換をしあい、共に生活する仲間として支え合えるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退居や利用終了でホームに来る機会がなくなっても、終了時にいつでも来れるようにしてある件をしっかりと説明し、いつでもオープンにホームを利用してもらえるよう努めている。その後も面会（他者の）遊びに寄ってもらえています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケース会議を通して利用者本位に近づけるよう検討しご家族にも意向を聞き把握に努めている。	職員は日頃の利用者の表情や言動、またご家族からの情報を基にして、思いや意向をくみ取るように努めている。申し送りや「連絡ノート」の記録等で情報の共有を図り、家族とも相談しながら、利用者にとってよりよい支援となるようにケアプランにも反映させて日々改善に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らしなど、ご家族の面会時に話を伺ったりするが、細かい部分まで、聞き取れていないような気がする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の状態に合わせた過ごし方が出来るよう無理強いすることがないように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議でスタッフからの気づきなどを、またご家族からの意向を反映し介護計画の作成に活かしています。	モニタリングを毎月実施し、介護計画は利用者及び家族の思いや意見を聞き取り、また、ケース会議を開催して主治医や職員の意見も十分確認して、利用者本位のものを作成している。支援の経過はケース「生活記録」や「業務日誌」に丁寧に記入されており、利用者の実態に沿った計画の見直しや修正を適切に行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の記録と介護計画の記録を分けて記入することにより、実践への反映に活かしています。結果の部分だけが主になっているので、工夫や気づきの点も記入していけたらと思います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の同意のもと、訪問看護と契約し週1回訪問してもらっている。医師との連携や助言や指導を受けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練で消防署、地域住民の協力を得たり、敬老会でボランティアの訪問をして頂き、楽しむことができるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎朝、開設者である院長の訪問があるので、健康状態の把握も出来ている。急な診察を要する場合でも院長宅が隣地にあるので、対応も可能である。	利用者の入所前の病歴や受診の状況は十分に把握されており、本人や家族が希望する医療機関で受診できるように支援している。通院は主に職員が同伴しており、週1回訪問看護も受けている。受診結果は利用者毎に記載され、「月次報告」や「家族への連絡ノート」電話等で家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	クリニックの看護職員と連携をスムーズに図るため、小さなことも連絡、相談するように努めてます。又、訪問看護時にも情報提供しクリニック、グループホーム3つの場所に行き渡るよう心がけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開設者である院長が医師会系の病院当直をされており、入院の手配や入院後の状態観察も行っている。時間を見つけてお見舞いに行き、病院関係者の方々から話を聞き施設の方でも情報を共有しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについてのご家族の意向や対応指針を定め、同意を得ている。24時間対応が出来るよう、訪問看護との連携がとれている。家族や先生を交え会議を開き、経過、今後の対応など十分に話し合いが出来るよう努めてます。	重度化や終末期のケアについては、利用開始時にホームの方針を説明して理解を得ている。重度化した時点で再度説明し、利用者や家族の希望に添った介護の取り組みについて関係者が十分話し合っって可能な限り対応しており、これまで2事例の看取りを実施している。協力医療機関や訪問看護との連携の体制が確立されており、カウンセリングや研修により職員の不安の除去やケアの技術の習得が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院長に救急時の対応の仕方の学習を行い、日中、夜間の対応マニュアルを作成し、緊急時に備えている。すべての職員が対応できるよう勉強会をはじめ訓練、指導のもと周知していききたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練や緊急連絡網を活用して取り組んでいる。これからも訓練を継続し、災害時スムーズに対応できるようにしていきたい。</p>	<p>消防署との連携により年2回、主に夜間の火災を想定した避難・消火・通報訓練を地域住民も参加して実施している。また、防災に関する講話や消火器等の取扱い、避難経路の確認等の研修も実施している。スプリンクラーや自動通報装置等の設備も充実し、食料や飲料水の備蓄や関連備品（卓上コンロ、懐中電灯等）の整備も十分に配慮されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の現在までの生活歴や家族からの情報を元に人格の尊厳を守るよう接遇にも気を使っている。新たな問題等が挙げられるときは職員全員で話し合いを重ね対応を統一できるようにしている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねる事のないように、丁寧な声かけや対応を日常的に心掛け、また、職員会議や朝礼、申し送り時に繰り返しケアの方法等を研修している。利用者の人格や感性を大切に、利用者のペースに合わせた対応となるような支援に努めており、入浴や排泄時の配慮や個人台帳等の管理も適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助や活動の前には利用者の意見や希望を聞き、意志の決定が図れるよう援助している。また、自発的に意思を訴えられない方には家族からの意向や情報を元に判断できるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調・気分に合わせて起床時間、食事等の生活における時間を一人一人のペースを考え生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服に関しては、意思表示が可能な入居者は本人と会話しながら決めるなどし選択の自由を図る。散髪等は希望時に行きつけの店に行かれる方もおります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、調理に参加されようとする方はおらず配膳、下膳を気分によってして下さるのがやっとなり。味付け方法を教えて下さる方もおられます。	利用者の嗜好や食事形態等を十分に把握しており、利用者の希望を取り入れながら、差し入れの野菜や施設の菜園の野菜も活用して、栄養バランスに配慮した食事づくりに努めている。季節感のある食材やおせちやひなまつり、節分等の行事食、弁当持参の花見や遠足、家族との会食等、食事を楽しめるように工夫しており、台拭きや下膳等は利用者も一緒に楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事・水分の摂取率や排泄状況なども踏まえ、本人の嗜好にあったもので一定量が確保出来るように援助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時・毎食後には職員が付き添い声かけや介助での口腔ケアが行えるように援助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導は定時以外にも訴え時や適宜で随時行えるように対応しています。また、日々の排泄チェック表や体調から排泄パターンを掴めるよう職員同士でもこまめに話をしている。	利用者個々の習慣や身体機能に応じた排泄支援になるように排泄チェック表を活用して、不安や羞恥心にも十分配慮しながら可能な限りトイレで排泄できるように支援している。利用者の状態に合わせた適切な対応になるように職員が十分に話し合い、ケアプランにも組み込んで改善に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関する勉強会と各利用者の体質や排泄パターンを元になるべく自然排便出来るよう自然食品（オリーブオイル）や乳製品、温・冷の飲み物等で胃腸反応を高めている。また、下剤の使用も必要時以外は控えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の意思を尊重しながら適時での入浴のお誘いをして、気軽に入浴しやすい環境を作っている。	利用者の体調や希望に配慮しながら、時には清拭やシャワー浴も含めて週に3回の入浴を支援している。入浴を拒否される場合には、無理強いしないで、声掛けの方法や時間、職員の変更など工夫して入浴への意欲を高めるようにしている。同性の介助希望、好みのシャンプー、ゆず湯や入浴剤の使用等利用者の気持ちを大切に支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人、自由に眠くなるまで過ごしてもらい、不安等あり眠れない時は、声かけをし、付き添い等の援助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬等、新しく処方される頓服薬等、誤嚥のない様、各個人目通しを行い、服薬中の状態チェックなども意識して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張りあいや喜びのある日々を過ごせるように支援している。お手伝いの後は、感謝の言葉を忘れないようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調、行動力の範囲内で散歩をしたり、病院受診や電気治療等を見学外出して頂いている。	利用者の健康状態や天候を考慮しながら、近隣の散歩、ドライブ、園庭での日光浴等を日常的に楽しんで頂いている。また利用者の希望に添って通院や買い物、墓参り等に職員が同行して地域の人と交流するなど、外出が楽しみなものになるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から小遣い程度の金額を預かり職員が管理しているが、利用者から訴えがあった時に買い物へ同行している。現在は入居者で管理されている方はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	1名の入居者は必要時、電話で会話されることはありますが、他の入居者はかけることはありません。文字を書く能力がある方もいるが、手紙のやりとりはない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングにはソファに座ってテレビ鑑賞や又デッキへ出て日光浴や植物の鑑賞など又その方の体調に合わせて居室にてラジオを聞かれるなどされています。	広い敷地には花壇や菜園も配置され、季節の花や野菜が栽培されている。全室広いウッドデッキがあり、出入りが可能で日光浴や四季の風景を楽しむことが出来る。また広いリビングは明るく、テーブルセットやソファが配置されており、好みの場所で自由に寛げる。廊下に天窓があるため常に明るく、室温や換気にも十分な配慮がなされ、また不快に感じる音や臭い等もなく清潔に整頓されている。随所に生花や写真、利用者と職員合作の絵画、折り紙等の作品が飾られ、和やかな雰囲気づくりの工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の気分に合わせて居場所が選択できるよう広い食堂ホールや、天気の良い日はウッドデッキにて日光浴をしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔、本人が使われていた物や気に入っている物を使用し、外出した際や家族との写真を飾っています。	余裕のある居室にはベッド、洗面台、エアコン、タンスが備え付けてあり、本人やご家族の希望により仏壇、写真、使い慣れた小物、置物等を自由に持ち込んで頂いてる。好みに応じた配置をしてもらい、家庭と同様に落ち着いて過ごせるような居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、お風呂場等に表札を付け、個人の理解力を把握し分かりやすくしています。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない